

会 議 録

会議名 (審議会等名)		令和2年度第2回相模原市文化振興審議会				
事務局 (担当課)		文化振興課 電話042-769-8202(直通)				
開催日時		令和3年1月14日(木) 10時00分から11時45分まで				
開催場所		相模原市役所第1別館1階 第2会議室 他				
出席者	委員	13人(別紙のとおり)				
	その他	0人				
	事務局	6人(市民局次長、文化振興課長、他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	0人
公開不可・一部不可の場合は、その理由						
会議次第		1 開 会 2 議 題 (1) 第3次プランで掲げる重点項目等の推進に向けた取組方針について ・活動拠点の再整備(アトラボはしもとの再整備)について ・文化財の保存・活用事業の推進について ・特色ある文化芸術事業の創造について (2)(仮称)相模原市文化活動推進アドバイザーについて 3 報 告 (1) 新型コロナウイルス感染症による本市文化芸術施策や施設の対応状況について (2) その他 4 閉 会				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事務局の発言)

1 開 会

会議の開催方法について、当初、WEB方式と集合方式の併用による開催を予定していたが、緊急事態宣言の発出に伴い急遽WEB方式を主体とし、当日の参加が難しい方には書面での参加をお願いする形で行うこととしたこと、また、委員1名は事務局の会場にてWEB会議に参加することなどを事務局より説明した。

また、会議の冒頭に出席委員の人数が定足数に達していることを確認した。

2 議 題

(1) 第3次プランで掲げる重点項目等の推進に向けた取組方針について

第3次プランの重点項目5つのうち、3(活動拠点の再整備)、4(文化財の保存・活用事業の推進)及び5(特色ある文化芸術事業の創造)に関して、前期(令和2~4年度)に取組む事業の概要について、資料1から資料3に基づき審議を行った。

<重点項目3：活動拠点の再整備>

施設の老朽化が進むアートラボはしもとの再整備に向けて取り組むとあるが、開所してから何年程度経過しているのか。

平成20年にマンション販売センターとして民間企業が建設した施設で、市は建物の寄贈を受けて、平成24年にアートラボはしもととして開所している。老朽化については、マンション販売センターの頃から使用していた設備をそのまま譲り受けており、その設備も他施設で使用していたものを再利用しているため、使用想定年数が超えている。施設開所からの年数はそれほど経過していないものの、設備等の老朽化が進んでいる状況にある。

施設の再整備は重要と考えるが、一方で相模原市には展示専用の戸建ての施設がない。そうした中で、なぜアートラボはしもとの再整備を推進するのか。

展示施設の充実については、美術館基本構想に基づき将来的に美術館を整備してまいりたいと考えているが、建設には多額の経費を要するとともに、完成後の運営経費も見据えながら検討を進める必要がある。そうした中で、本市の厳しい財政状況を鑑みると、現時点ではなかなか前に進められない状況にあることをご理解いただきたい。一方で、そうした状況の中でなぜアートラボはしもとの再整備が推進できるのかと言うと、民間企業より現在地を美術施設の用地としていただいたことや再整備に伴う建設費用も受領していることから、推進するものである。

再整備をすると何階建ての施設になるのか。

民間事業者からの提案内容によるため、現段階では未定である。

建設に当たっては団体や関係機関の意見も聞きながら、使いやすく利用しやすい

施設となるよう取り組んでいただきたい。

機会を捉えて、文化団体や関係機関へ意見を伺いながら取り組んでいく。

展示施設の充実が必要という意見に同感だが、新設の場合、多額の予算を要することから難しい面もあろうかと考える。アートラボはしもとに関しては、これまでの仮設的な施設を民間活力の導入により、コストをあまりかけずにリニューアルすることを検討しているため、やり方としては良いと考える。また、アートラボはしもとの特徴は、ワークショップを通じて市民がアートに触れることでアートに興味関心を持ち、市民同士が交流することで新たなコミュニティが生まれることが挙げられるため、そうした事業展開が可能な機能に特化して整備を行った方が良い。美術館が担う展示機能なども合わせて多目的に整備すると、結果的に使いづらくなり設置目的が薄れてしまうことがある。これまでの検討経過や事業実績を踏まえて取り組んだ方が良いと考える。

施設ごとに機能の役割分担を行う必要があると考える。様々な機能をひとつの施設に全て担わすのではなく、複数の施設で特徴を踏まえながら各機能を持たせるなどバランスをとりながら、対応を図る方が望ましい場合もある。展示機能の充実をどのように図っていくかは引き続き審議会で検討していければと考える。

アートラボはしもとがどこにあるのか市民には行き届いていないように感じるため、PRが必要ではないか。隣接するアリオ橋本からアートラボはしもとに行く人がいないように感じる。一方で、今回事務局から提案がされた民間事業者との連携については重要と考える。民間事業者からの提案に期待する。

いただいたご意見を踏まえて対応を検討していく。

< 重点項目 4 : 文化財の保存・活用事業の推進 >

昨年、古民家園や小原宿本陣で演奏活動を行ったが、今後プロの演奏家に有料で文化財施設を貸し出し、実施されるイベントの来場者等から入場料を取って事業を成立させることを検討してもいいのではないか。入場料収入は出演者等への謝礼のほかに施設の維持管理経費に充てれば、演奏家にとっても市にとってもメリットがあると思う。素敵な施設があるのに活用しないのは勿体ないと感じた。

現状では、提案いただいた形での施設利用に係る仕組みが構築されていないが、市の財政状況が厳しい中で、文化財建造物の適切な保存には多額の経費を要することから、今後そうした活用方法についても検討していく必要があると考えている。

音楽活動に限らず現代美術の作家の活動も、文化財施設で実施することができるかもしれない。今後は既存の建物をいかに利用していくか、また、幅広い活動を市民にどう周知していくかを、企画を立案する段階から意識していくと良い。

アートに関する活動は様々な分野との連携を図りながら、相乗効果を見据えて取り組んでいく必要があると認識しているため、実現可能なものから対応を図ってい

きたいと考えている。

市内の文化財施設はいずれも遠方にある。近くに居住する人は行きやすいが、そうでない場合は親しみが無い。PRも少ないことから、周知が必要と考える。

いただいたご意見を踏まえて、更に効果的な情報発信に取り組んでいく。

<重点項目5：特色ある文化芸術事業の推進>

今回提案した事業については、検討中のものや今後構想を固めていくものが含まれており、新型コロナウイルス感染症の社会情勢や市の財政状況を鑑みて、実施の可否を判断するため、現段階で確約するものではないことをご理解いただきたい。

コロナ禍により様々なイベントが中止や延期などの影響を受けている。そのため、今後はオンラインを活用した動画配信などの企画立案も検討いただきたい。

新型コロナウイルス感染症対策は重要だが、全事業を中止するのではなく、手法を変えることで実施可能となる場合もあることから、様々な検討をいただきたい。

子ども写真教室は子どもが地域にある物に目を向けられるような学習に繋がり、大変良いと考える。一方で、(仮称)はしもとアートフェスは橋本地区だけでなく、もう少し広域に検討してほしい。今後は博物館との更なる連携が必要と考える。

ご指摘いただいた視点も踏まえて検討を進めていく。

(2)(仮称)相模原市文化活動推進アドバイザーについて

市民文化活動を推進し地域に根ざした施策展開を図るために、市が実施する文化芸術施策への助言及び協力等を行う(仮称)相模原市文化活動推進アドバイザーの設置について、資料4に基づき審議を行った。

アドバイザーを推薦いただく各団体の年齢を考えた時に、年齢層が高い方に偏っているように感じた。30代から50代前半のミドル層の方にも参画していただくと良いと考える。

民謡協会や吟剣詩舞連盟は年配の方も多いが、エビバディ パフォーマンス連盟は、ミドル層から10代20代の若い方々が活動されているので、こちらの団体から色々なご意見をいただくと良いのではないかと考える。

フォトシティさがみはらサポーターズクラブからも推薦をいただくのはどうか。

本市の市民文化活動の中心は、公民館を活動の拠点としている団体やあじさい大学を受講された方々で構成するサークルであることから、団体やサークル活動をされている皆様からご意見を伺う必要があると考え、候補を抽出させていただいた。また、ミドル層の方の活動は組織化があまりされていないと伺っており、特定の団体からお話を伺うことが難しい状況である。今回候補に挙げた団体は、「新規会員の獲得に関する取組を行っている団体」という視点から選出しているが、今後別の

視点でご意見をいただく際は、ミドル層の方にも参画いただければと考えている。

候補に挙がっている3団体から活動の実態をお話いただけることは、とても良いことだと考える。ミドル層の方は仕事などにより、会議に参加することが難しいのではないと思われる。エビバディ パフォーマンス連盟の中にミドル層の方が含まれるのであれば、会議に参加される方を通じて意見をいただければ良いと考える。

3 報 告

(1) 新型コロナウイルス感染症による本市文化芸術施策や施設の対応状況について

事務局より、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策に係る市主催イベントや市施設の対応、文化施設の利用条件及び文化芸術活動への支援に係る取組状況について、資料5に基づき報告を行った。

文化芸術発表・交流活動支援事業補助金に応募した団体数を報告いただきたい。

感染防止対策を講じて実施するイベントの開催として49団体、また、動画の制作として2団体の計51団体から応募をいただいたところである。

本年度はコロナ禍のため、ほとんどの文化芸術事業が行われなかった。中止にはなってしまったが良い企画が多かったと感じており、今後も引き続き取り組んでいただきたい。展示部門は見学者の距離を置けば鑑賞することができる場合もあることから、そうした検討も進めていただきたい。

(2) その他

事務局より、第3次プランの重点項目2(情報発信の強化)の取組として実施した市ホームページのリニューアルについて、資料6に基づき報告を行った。

リニューアルにより非常に見やすくなったと感じる。今後もコンテンツの充実に期待する。市民目線の活用方法も今後打ち出していけると良いと考える。

情報発信の強化に向けてよくやっていると感じる。後は、市民がいかにホームページに目を向けられるか、そのためのPRが必要と考える。

より見やすく利用されるホームページになるよう、引き続き取り組んでいく。

4 閉 会

以 上

令和2年度第2回相模原市文化振興審議会委員出欠席名簿

	氏名	所属等	備考	出欠席
1	おおもり さとる 大森 悟	女子美術大学芸術学部美術学科教授	会長	出席
2	かねこ ともえ 金子 朋沐枝	相模原市文化協会副会長		出席
3	かみじょう ようこ 上 條 陽子	相模原芸術家協会会長		出席
4	きぐち えいじ 木口 詠辞	公募委員		出席
5	しのざき しげお 篠崎 重雄	相模原市民俗芸能保存協会副会長		出席
6	すぎもり じゅんこ 杉森 順子	桜美林大学芸術文化学群教授		出席
7	すずき まさひこ 鈴木 正彦	光と緑の美術館館長		出席
8	とつか あつお 戸塚 厚生	相模原市文化財研究協議会会長		出席
9	ともだ ゆきお 友田 幸男	相模原市民音楽団体協会理事長		出席
10	なかざと かずひと 中里 和人	東京造形大学造形学部デザイン学科教授	副会長	出席
11	のむら けんいち 野村 謙一	公益財団法人相模原市民文化財団 常務理事		出席
12	ひぐち みきこ 樋口 美佐子	相模原音楽家連盟事務局長		出席
13	みつもと ひろこ 三本 博子	公募委員		出席